

授業科目 地域看護学実習 I

【担当教員名】 清水由美子 西脇友子 石原美由紀 丸山敬子 杉本洋 北村香織	対象学年	3～4	対象学科	看護
	開講時期	後期・前期	必修・選択	必修
	単位数	3	時間数	135

【<概要>又は<一般目標：GIO>】

地域において個人・家族・集団・地域を対象として展開される看護活動の実際を体験することにより、これまでの学習を統合し、地域看護活動の実践に必要な技術と態度を習得する。

【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】

1. 実習地域のアセスメントを実施し、人々の健康や生活を守る制度や取り組みを理解するとともに健康問題の社会的背景を考察する。
2. 保健師活動の実際を知り、保健師の役割と必要な能力について学ぶ。
3. 保健師だけでは対応が難しい課題の解決に向けて、地域住民や関係機関、他職種と連携・協働する意義とその方法について説明する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	<p>1. 実習地域のアセスメントを実施する。</p> <p>(1) 既存資料により実習地域の概要をとらえる。</p> <p>(2) 地区踏査および関係機関への訪問を行う。</p> <p>(3) 参加可能な保健事業に参加する。</p> <p>(4) 地域保健計画および健康危機管理体制について調べる。</p> <p>(5) 上記(1)～(4)の結果に基づき地域アセスメントを実施し、地域の顕在的および潜在的な健康問題と関連づける。</p> <p>(6) 健康問題の背景となる社会的要因について考察するとともに、現在の対策で十分であるか検討する。</p> <p>2. 次の保健師活動に参加し、保健師の役割と必要な能力について学ぶ。</p> <p>A) 個人・家族を対象とした保健活動</p> <p>B) 集団・地域を対象とした保健活動</p> <p>C) 連携・調整</p> <p>D) 地域看護管理</p> <p>3. 次の活動を体験し、地域住民とや関係機関、他職種との連携・協働について学ぶ。</p> <p>A) 多職種が関わる事例検討会</p> <p>B) 関係者による連携会議や他機関訪問</p> <p>C) 地域の住民組織や住民グループの活動</p> <p>D) 精神・難病・感染症等を対象とした保健活動</p>	1～3	実習 地域看護領域全教員で担当する

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	国民衛生の動向	厚生統計協会	2008年	2,400円
	保健師が行なう家庭訪問	新潟県保健師活動研究会編	やどかり出版	2005年 1,900円
参考書	新版 保健師業務要覧	日本看護協会監修	日本看護協会出版会	2005年 4,800円
	国民衛生の動向	厚生統計協会	2006年	2,400円
その他の資料				

【評価方法】 出席状況、学習態度 (50%) 実習記録、レポート (50%)	【履修上の留意点】 学生間で互いに助け合い、よりよい学習ができるよう心がけ、積極的に実習に臨むこと。
--	---

看護学 専門